

## 野田哲也：日記

日本の現代版画を代表する作家のひとりである野田哲也は、写真を使ったシルクスクリーンと木版を組み合わせて自身の日常の断片を描いた〈日記〉シリーズによって、独自の作品世界をつくりあげ、国際的な評価を受けてきました。〈日記〉シリーズは、家族や知人の肖像、あるいは自画像に始まり、静物や風景へと題材を広げ、自身の日常を日記として記録したものでありながら、その奥には多義性や普遍性を含んでいます。本展は、2007年3月の東京藝術大学美術学部版画研究室教授退任を記念し、〈日記〉シリーズの1968年の記念すべき第一作から現在までの作品のうち主要な版画と立体マルチプル、初期の貴重な習作など、あわせて70点を展示し、野田哲也の歩みを辿ります。

会期 2007年1月11日（木）～1月28日（日）  
開館時間 10：00～17：00（入館は16：30まで）  
休館日 毎週月曜日  
会場 東京藝術大学大学美術館 地下2階展示室  
入場料 無料  
主催 東京藝術大学美術学部 東京藝術大学大学美術館  
問合せ 03-5777-8600（ハローダイヤル）  
<http://www.geidai.ac.jp/museum/>



《日記 1976年8月19日》  
柏わたくし美術館所蔵

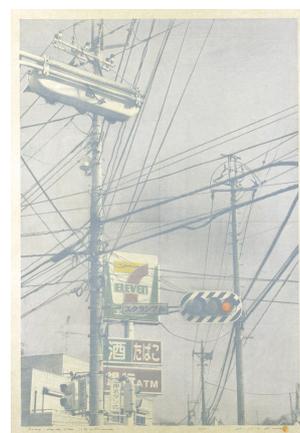
\*本展は、2006年9月30日（土）～12月24日（日） CCGA 現代グラフィックアートセンターにおいて開催しています。



《日記 1968年8月22日》  
東京藝術大学大学美術館所蔵



《日記 1987年5月30日、柏市亀甲台2-12-4》



《日記 2005年3月5日、柏》

作家略歴

1940年 熊本県生まれ

1963年 東京芸術大学美術学部絵画科油絵専攻卒業

1965年 東京芸術大学大学院絵画研究科油絵専攻修了(在学中に小野忠重から木版を学ぶ)

1978年— 東京芸術大学美術学部版画研究室講師

81年— 同助教授

91年— 同教授

この間、客員芸術家としてカナダ、アルバータ大学('84)、オーストラリア、キャンベラ美術学校('90)、アメリカ、コロンビア大学('98)などで教える。また、第5回英国国際版画ビエンナーレ('76)、第10回ソウル国際版画ビエンナーレ('96)などで国際審査員を勤める

《主な展覧会と受賞歴》

1968年 東京国際版画ビエンナーレ、国際大賞を受賞

1971年 サンパウロビエンナーレ

1972年 ベニスビエンナーレ(グラフィックインターナショナル部門)

1977年 リュブリアナ国際版画ビエンナーレ、大賞を受賞

「機械化されたイメージ:20世紀版画の歴史的展望」

(イギリス・アートカウンシル主催イギリス巡回展)

1978年 ノルウェー国際版画ビエンナーレ、大賞を受賞

1980年 「刷られた芸術:20年間の展望」(ニューヨーク近代美術館)

1983年 「1900年以後の日本の版画」(大英博物館)

1987年 リュブリアナ国際版画ビエンナーレ、名誉大賞を受賞

1990年 「20世紀日本版画の革新と伝統」(アメリカ、シンシナティ美術館)

1993年 山口源記念大賞を受賞

1995年 「現代美術の流れ」(東京都現代美術館)

1998年 「フォトイメージ:60年代から90年代の版画」(ボストン美術館)

2002年 「未完の世紀:20世紀美術がのこすもの」(東京国立近代美術館)

「紙による現代美術作品:近年の買い上げ作品から」(サンフランシスコ美術館)

2003年 「MOTアニュアル:おだやかな日々」(東京都現代美術館)

紫綬褒章を受章

2004年 「ある人生の日々:野田哲也の芸術」(アジア美術館、サンフランシスコ)

2005年 「野田哲也版画の世界」(宇城市不知火美術館、熊本)

2006年 「現代の版画—写真の活用とイメージの変容」(東京国立近代美術館)

(他、個展・グループ展多数)

《パブリックコレクション》

東京国立近代美術館／東京都現代美術館／熊本県立美術館／町田市立国際版画美術館／ニューヨーク近代美術館／シンシナティ美術館／ロスアンゼルス郡立美術館／サンフランシスコ美術館／大英博物館／ワルシャワ国立美術館／オーストラリア国立美術館 (他多数)

展覧会・画像お貸出しについてのお問合せは下記までお願い致します。

東京芸術大学美術館 企画・管理係

Tel: 050-5525-2438 Fax: 050-5525-2532 E-mail: takebaya@off.geidai.ac.jp